平成28年度　沖縄県立総合教育センター特別支援教育班　後期長期研修員　第２回検証授業

「自立活動」学習指導案

日　　時：平成29年1月17日（火）

５校時（13:55～14:40）

場　　所：那覇市立小禄小学校

特別支援学級「ふれあい」

対象児童：男子２名

授 業 者：玉村　弥修

指導主事：塩川　真弓

**Ⅰ　研究テーマ**

自閉症スペクトラム児のコミュニケーションスキルを高める指導法の工夫

-自立活動における「コミック会話」「ソーシャルストーリー」の実践を通して-

**Ⅱ　研究仮説**

自閉症・情緒障害学級の自立活動におけるＳＳＴの取組みにおいて「コミック会話」「ソーシャルストーリー」の手法を取り入れ、指導法を工夫することによって、自分の気持ちを表現する方法を習得することができ、場や相手の状況に応じたコミュニケーションスキルを高めることができるであろう。

**Ⅲ　研究テーマとの関わり**

平成24年７月の中央教育審議会報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」によると、共生社会とは必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が積極的に参加・貢献していくことができる社会であると示されている。障害のある児童生徒が、そのような社会に参加することができる力を身に付けるには、相手との会話のキャッチボールをしながら意思疎通を図ったり、場や相手の状況に応じた対応したりすることができるコミュニケーションスキルの習得が不可欠である。

平成21年の特別支援学校学習指導要領解説自立活動編において、社会の変化や障害の重度・重複化、発達障害を含む多様な障害に応じた指導を充実させるため、自立活動の内容に「人間関係の形成」が加えられた。「人間関係の形成」では、自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点から内容が示されている。

那覇市立小禄小学校は知的障害学級２学級、自閉症・情緒障害学級３学級が設置されている。本研究の対象となるＡ児は自閉症・情緒障害学級に在籍しており、自閉症スペクトラム（以下「ＡＳＤ」とする）と注意欠陥/多動性障害（以下「ＡＤＨＤ」とする）を併せ有している。文字を書いたり絵を丁寧に描いたりすることが得意で、一人でおもちゃやゲームで遊んだりすることが好きである。授業中、なかなか集中することができないときに学習内容と関係のない話をしたり、教室内を立ち歩いたりする行動がみられる。体育や音楽の授業での交流及び共同学習においては、友だちに促されて学習に参加している。しかし、友だちに対して「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝える姿があまりみられない。また、「嫌だ」という自分の気持ちをうまく表現することができずに、咳払いなどのチック症状やその場に座り込んでしまう不適応行動が現れてしまうことがある。さらに、相手の話を聞かずに自分の興味のあることを一方的に話し続けたり質問を投げかけたりする等、コミュニケーションが一方通行になってしまう現状がみられる。

このような状況を改善するために、自立活動の授業において日常生活におけるコミュニケーションの場面を取り上げ、教師の手本を基に会話をするといったロールプレイングの手法を取り入れたソーシャルスキルトレーニング（以下「ＳＳＴ」とする）を行ってきたが、会話のキャッチボールや自分の気持ちを表現するスキルの定着が不十分であった。

そこで、「コミック会話」「ソーシャルストーリー」の手法を取り入れたＳＳＴに着目した。文字を書いたり絵を描いたりすることが得意であるＡ児の特性を活かし、コミック会話の手法を用い、場や相手の状況に応じた話し方や行動について考え、ソーシャルストーリーを用いて学習内容を視覚的にフィードバックすることで、場や相手の状況に応じた対応や自分の気持ちを表現する方法を習得することができるのではないかと考える。さらに、習得したスキルを、学校生活や家庭・地域と連携し、一貫した取組みを実践し、成功体験を積むことでコミュニケーションスキルを高めることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

１　児童観

本特別支援学級は、５年生２名、６年生４名、計６名で編成されている。本時の授業は、本研究対象児のＡ児とＢ児２名の６年生男子児童が参加する。Ａ児とＢ児ともに自閉症と知的障害を併せ有し、Ａ児はＡＤＨＤも併せ有している。

Ａ児は一人で行動することを好み、休み時間は学級で絵を描いたり、別の教室に行って自動車のおもちゃで遊んだりして過ごしている。協力学級での交流及び共同学習においては、学校行事と体育や音楽などの特定の教科を友だちの手助けで学習に参加することができている。

コミュニケーションスキルについては、学級担任や支援員の先生、慣れ親しんだ友だちとはおしゃべりをする姿もみられているが、相手に対して自分の興味のある事柄について一方的に話したり質問したりするために会話が成り立たず、コミュニケーションが一方通行になってしまいがちである。また、自分の気持ちをうまく言葉で表現することが苦手である。特に嫌な気持ちをうまく言葉にして表現することができずにストレスから、チック症状や不適応行動がみられることがあった。

現在は、感謝の気持ちや断り等の意思表示を伝えることができるようにするために「コミック会話」や「ソーシャルストーリー」の手法を取り入れたＳＳＴを行い、学習したやり取りを般化に繋げるために、教室をはじめ、印刷室や保健室等において場の構造化を行うとともに、他教師、保護者等と連携し感謝の言葉を話す場を意図的に設定してもらう等の取り組みを継続中である。

一方、Ｂ児はＡ児と入学時からこれまで同じ学級で、ともに学習してきた児童である。Ａ児とは共通した話題で楽しそうにおしゃべりをする姿が多く見られる。コミュニケーションスキルについては、進級するにしたがって自分の気持ちや考えを言葉で表現することができるようになってきている。

今後の中学校への進学、その後の就労に向けて、コミュニケーションスキルをさらに高めるためにＳＳＴを継続中である。

２　研究対象児童の実態と自立活動の指導内容

Ａ児の実態把握から個別の指導計画までの流れを次のように示す。Ａ児の実態を自立活動の六つの区分（ア）に整理し、（イ）指導目標を設定した。次に(ウ)自立活動における項目に整理し、具体的な指導内容（エ）と関連付けた。本研究では主に「具体的な指導内容」の①と②を基本としながら個別の指導計画（オ）のもと、学習を進めていくことにする。

（ア）Ａ児の実態把握

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点  児童 | 実態や課題 | | | | | |
| 1　健康の保持 | ２　心理的な安定 | ３　人間関係の形成 | ４　環境の把握 | ５　身体の動き | ６　コミュニケーション |
| Ａ児 ６年  男子 | ADHDを併せ有しているため、コンサータを服用している。  小児ネフローゼ症候群の治療中であるが、状態は良好である。 | 嫌なことを思い出すと泣き出すことがある。  慣れない環境では落ち着かず、立ち歩く姿が多くみられる。 | 集団でも一人でいることが多く、一人で自動車や鉄道のおもちゃで遊ぶことを好む。鬼ごっこや球技などの集団活動にはあまり興味がない。  慣れた友だちとは、おしゃべりしたり、一緒に移動したりする。 | 聴覚に関して苦手な音がある。視覚に関して絵や写真を集中して眺めることを好む。  自宅近辺や校内等慣れた場所での自分の位置を把握することができる。 | 文字を力強く丁寧に書くことができる。  絵を描くのが得意である。 | 自分の思ったことを言葉で伝えることが苦手である。  独り言を言うことが多い。  自分の興味があることを一方的に話したり、質問したりする。  相手の話を最後まで聞くことが苦手である。 |

（イ）指導目標

|  |
| --- |
| 自分の気持ちを表現する方法を習得し、場や相手の状況に応じたコミュニケーションスキルを高めることができる。 |

（ウ）自立活動における項目

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 選定された項目 | １　健康の保持 | ２　心理的な安定 | ３　人間関係の形成 | ４　環境の把握 | ５　身体の動き | ６　コミュニケーション |
|  |  | (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 |  |  | (2) 言語の受容と表出に関すること。  (3) 言語の形成と活用に関すること。  (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。  (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。 |

（エ）具体的な指導内容

|  |  |
| --- | --- |
| 1. 文字を書いたり絵を描いたりすることが得意なA児の長所を活かし、コミック会話の作成に取組むことで、場面の状況に合ったやり取りを考えることができるようにする。 | 1. ＳＳＴにロールプレイングの手法を取り入れることで、自分の気持ちや意思を言葉で伝えるスキルを身に付けることができるようにする。 |

（オ）自立活動における個別の指導計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 長期目標 | コミュニケーションスキルを高め、他者と会話することができるようになる | | | |
| 短期目標 | 指導目標 | | 題材 | 評価 |
| ①挨拶や自己紹介等コミュニケーションの基礎を身に付ける。 | コミュニケーション・  人間関係の形成 | ・ときと場合に応じた気持ちのよい挨拶をすることができる | ・朝や昼に「おはようございます」「こんにちは」等、挨拶をする場面 | ・相手の顔を見て挨拶することができる |
| ・自分の名前や好きなものを紹介することができる | ・自己紹介で自分の名前、学年、好きなことを相手に聞こえるように話す場面 | ・名前、学年、好きなことを話すことができる |
| ・友だちの自己紹介を聞くことができる | ・友だちの名前、学年、好きなことをしっかり聞く場面 | ・友だちの名前、学年、好きなことを聞くことができる |
| ②相手や場　　　　　　　　の状況に応じて、自分の気持ちや意志を言葉で伝えるスキルを身に付ける | コミュニケーション・人間関係の形成 | ・場や相手の状況を理解する  ・感謝の気持ちを言葉で伝えることができる | ・先生にしてもらったことに感謝する気持ちを言葉で伝える場面  ・相手に手助けしてもらったことに感謝する気持ちを言葉で伝える場面  ・物やトイレを貸してもらったことに感謝する気持ちを伝える場面 | ・自分の気持ちをコミック会話に記入し、完成することができる  ・ロールプレイングを通して、相手に感謝する気持ちを言葉で伝えることができる |
| ・場や相手の状況を理解する  ・相手に自分の気持ちや意志を言葉で伝えることができる | ・大きな声で話す相手に静かにしてほしい意志を言葉で伝える場面  ・嫌なことをする相手にやめてほしい気持ちを言葉で伝える場面  ・自分の好きな遊びを続けたい意志を言葉で伝える場面 | ・自分の気持ちや意思をコミック会話に記入し、完成することができる  ・ロールプレイングを通して、自分の気持ちや意思を言葉で伝えることができる |

**Ⅳ　本時の学習**

１　題材名「ともだちのさそいのことわりかたを知ろう」（自立活動）

２　本時の目標

　・コミック会話の作成を通して、断りの意思を表す言葉に気づくことができる。

・断りの意思をきちんと言葉で伝えることができる。

３　題材観

本時で取り扱う題材「ともだちのさそいのことわりかたを知ろう」は自立活動の学習における人間関係の形成、コミュニケーションの2区分に関わる学習内容である。本特別支援学級の児童は普段の学校生活で特別支援学級内や協力学級で他の児童とともに活動している。休み時間にＡ児が一人で絵を描いたりしながら過ごしているときに、友だちから「Ａ君、〇〇しよう。」と遊びに誘われることがある。Ａ児が興味を持って誘いに応じるときはいいのだが、誘いに応じず自分の興味がある遊びを続けたいときには、友だちの誘いを無視せずに「今日はやらない」「後で」等の言葉を使って、断りの意思を伝えることは、他者との円滑なコミュニケーションスキルを高め、今後の望ましい人間関係を築くために欠かせないものであると考える。

これまで、第１時から第７時までは感謝の気持ちを表現することを学習してきた。第８時では「静かにしてください。」と相手を注意する場面、第9時は「嫌です。」と相手の行為を拒絶する場面等、自分の要望を伝えることを学習してきた。第10時（本時）では友だちの誘いを断る日常的な場面を設定する。相手の誘いに対して無視することなく断りの意思を言葉で表現する学習を行うことで、コミュニケーションスキルを高めることを期待することができる題材ではないかと考える。

４　指導観

本時の学習では、普段の活動の中から「今日はやらない。」「後で。」等の断りの意思を言葉で伝える場面を取り上げる。Ａ児が自分の好きな遊びをしている際、友だちから「おにごっこしよう。」と別の遊びに誘われたときに、相手を無視せずに断りの意思を言葉で伝えることができるようにすることをねらいとした自立活動の学習である。

授業の前半にコミック会話を作成する活動では、本時の学習で取り扱う場面の状況を説明する際に、口頭だけで説明するのではなく、教師によるロールプレイングを取り入れながら場面を視覚化し、児童が状況を理解しやすい指導を工夫していく。

また、コミック会話の作成時にＡ児に多くの会話文を課題として設定すると、後半のロールプレイングを実施するときに混乱してしまうことが考えられるため、Ａ児の台詞を1つに設定し、吹き出しの色を変えたりＡ児の名前を記入したりすることで、Ａ児がスムーズにロールプレイングで会話することができるように配慮する。さらに人物の表情や仕草をシンボルとしてイラストに記入させることで、相手を意識した会話ができるようにしたい。

後半は、さらに完成したコミック会話をロープレイングで確認する。Ａ児が見通しを持ってロールプレイングに臨むことができるように会話の順序や人物の表情等を掲示して確認しながら進めていく。コミック会話の作成やロールプレイング等、リラックスした状態で活動することができるよう、声かけ等の配慮を行う。

うまくできたら、Ａ児が自信をつけるがんばりを賞賛し、事後の指導では、学習の復習として前時に取り扱ったコミック会話を基に作成したソーシャルストーリーを朝の会や家庭学習で確認したり、教室外でコミュニケーションの流れを構造化し反復したりする活動を通して定着を図るとともに、協力学級や先生たちとの関わりの中で般化の場面を設定し、自分の気持ちが言葉にして話すこと姿が増えるようにしたい。

５　児童の実態と個別目標及び評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 児童の実態と個別目標及び評価　　　◎自分でできた ○教師の支援でできた △もう少しです | | | |
| 児童名 | 本時における児童の実態 | 本時の個別目標 | 評価 |
| Ａ児  ６年  男子 | ・文字を力強く丁寧にかくことができる。  ・絵を描くのが上手である。  ・人と話すための単語や文章の習得が不十分である。  ・一度に多くの言葉を話すのが苦手であり、話すことを視覚化し整理する必要がある。 | ・自分の気持ちや意思をコミック会話に記入し、完成することができる  ・ロールプレイングを通して、自分の気持ちや意思を言葉で伝えることができる  　　　　　（ワークシートを見てもよい） |  |
| Ｂ児  ６年  男子 | ・平仮名やカタカナを書くことができる。  ・簡単な絵を描くことができる。  ・自分の気持ちや意思を伝えることができるようになってきた。  ・教室内等、慣れた人物や環境では堂々と話すことができるが、人前で話すことが苦手である。 | ・自分の気持ちや意思をコミック会話に丁寧な言葉使いで記入し、完成することができる  ・ロールプレイングを通して、自分の気持ちや意思を丁寧な言葉で伝えることができる  （ワークシートをできるだけ見ない） |  |

６　本時の展開

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 学習内容 | 教師の動き | 個人別学習目標と評価 | | 準備物 |
| Ａ児 | Ｂ児 |
| 導入  ５分 | ・前時までの学習内容を復習する。  ・本時の授業で学習することを確認する。 | ・ソーシャルストーリーをプレゼンテーションソフトで提示する。  ・本時の学習目標を確認する。 | ・ソーシャルストーリーを聞く活動を通して、前時までの学習内容を復習する。  ・自分の好きな遊び（絵を描いている）をしているときに、友だちから別の遊び（おにごっこ）に誘われる場面を取り扱うことを理解する。 | | ・液晶テレビ  ・パソコン  ・スライドショー資料 |
| 展開30分 | ・場面を把握し、コミック会話を  作成する。  ・１枚目のワークシートにテーマに合わせて登場人物や吹き出しを描く。  ・自分の好きな遊び（絵を描いている）をしているときに、友だちからおにごっこに誘われるが、断る場面を描く。  ・吹き出しに台詞や気持ちを記入し、シンボルとして人物の表情も描き入れる。  ・時間にゆとりがある場合は、誘いを断る場面をもう一つ取組む。  ・コミック会話を完成させ、全員で内容を確認する。  ・相手を無視しないことや顔を見て話すことを確認する。  （板書） | ・ワークシートを配布する。  ・本時で扱う場面を教師によるロールプレイングで提示し、理解しやすいように支援する。  ・人物、周りの物、吹き出し、表情の順番を示す。  ・わかりやすくするように、Ａ児の吹き出しを１つに設定する。  ・なかなか思いつかないときは、教師の方で声かけ等の支援を行う。  ・表情等シンボルの記入を確認する。  ・ワークシートを見せ、内容を確認する。  ・吹き出しの色を変えたり、名前を書き入れたりして、やり取りの理解を図る。 | Ａ児の個人目標  ・コミック会話の作成を通して、断りの意思を表す言葉に気づくことができる。  ・ロールプレイングを通して、断りの意思をきちんと言葉で伝えることができる。  　　　　（ワークシートを見ながらでもよい）  身に付けさせたい言葉  Ａ「今日はやらない。」「後で。」等  Ｂ「うん、わかった。」「今度ね。」等  評価  ・人物や台詞を記入し、コミック会話を完成する  ことができる　　　　　　（ワークシート） | Ｂ児の個人目標  ・コミック会話の作成を通して、断りの意思を表す言葉に気づくことができる。  ・ロールプレイングを通して、断りの意思を丁寧な言葉で伝えることができる。  　　　　　　　　　（ワークシートを見ない）  身に付けさせたい言葉  Ａ「今日はやりません。」「後で。」等  Ｂ「うん、わかった。」「今度ね。」等  評価  ・人物と丁寧な言葉使いの台詞を記入し、コミッ  ク会話を完成することができる。  　　　　　　　　　　　　　　（ワークシート） | ・ワークシート  　（そのまま掲示することができるように画用紙を活用する。）  ・４Ｂ鉛筆  ・掲示用マグネット  ・マーカーペン  ・ビデオカメラまたはデジタルカメラ |
| ・ロールプレイングを行う。  ※時間をみて、ＡＢの役割を交換する。 | ・役割や台詞等を確認し、スムーズにロールプレイングが進められるようにする。  ・ビデオカメラで録画する。 | 評価  ・自分の気持ちや意思を言葉で伝えることができる。（観察） | 評価  ・自分の気持ちや意思を丁寧な言葉で伝えることができる。（観察） |
| まとめ  10分 | ・学習の振り返りをする。  ・先生の話を聞く。 | ・今日のよかったことを確認する。  ・Ｂ役の立場で無視されずに言葉で返事をもらった気持ちに触れる。  ・振り返りシートを活用し、本時の学習を振り返る。 | ・録画されたロールプレイングを見て、振り返りをする。  ・簡単な記入項目の振り返りシートに記入する。 | | ・振り返りシート |

７　準備物

　・作業用ワークシート　　・マーカーペン　　・４Ｂ鉛筆　　・液晶テレビ　　・ビデオカメラまたはデジタルカメラ　　・パソコン　　・パワーポイント資料　　・掲示用マグネット

８　評価

　・コミック会話の作成を通して、断りの意思を表す言葉に気づくことができるようになったか。

・断りの意思をきちんと言葉で伝えることができるようになったか。

９　場の設定

黒板

黒板

黒板

黒板

液晶テレビ

液晶テレビ

液晶テレビ

液晶テレビ

教卓

教卓

教卓

パソコン

パソコン

パソコン

パソコン

Ｂ児

Ｂ児

Ｂ児

Ａ児

Ａ児

Ａ児

10　板書計画

|  |
| --- |
| めあて  ともだちのさそいのことわりかたをがくしゅうしよう  Ａ さそいをことばでことわろう  わかった  こんどね　　等  わかった  わかった  わかった  Ｂ さそいをていねいなことばでことわろう  だいめい「ともだちのさそいのことわりかた」  きょうはやらない  あとで　　等  ポイント  ・むしせずにこたえよう。  ・あいてのめをみてはなそう。 |

11　ワークシート

※友だちからの、おにごっこの誘いを断る場面を描く。

※友だちがおにごっこに誘いを断る場面

　　月　　日

題名「ともだちのさそいのことわりかた」

　　　　名前（　　　　　　　　　　　　　　　）

　　月　　日

題名「〇〇くん、おにごっこしよう」

　　　　名前（　　　　　　　　　　　　　　　）

12　振り返りシート

じゅぎょうのふりかえりシート　　　１月１７日

なまえ（　　　　　　　　　　　　　）

きょうの、じりつかつどうのじゅぎょうは、どうでしたか？

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| しつもん | じこひょうか | | |
| うまくことわることは、できましたか？ | うまくできた | できた | できなかった |
|  |  |  |

あてはまるところに○をつけてね！

ひとことかんそう

|  |
| --- |
|  |